

巻頭言

新任挨拶



TSUNEMITSU Hiroshi

ウイルス・疫学研究領域長 恒光 裕

動

物衛生研究所（動衛研）は昨年春より独立行政法人第3期目としての業務を新たな体制で開始し、拙生はウイルス・疫学研究領域長を拝命いたしました。遅ればせながら新任のご挨拶をさせていただきます。

早50代後半に入り、このような役職を担わねばならぬ年になってしまいました。振り返れば、帯畜大卒業後、新得畜試（現道総研畜試）で12年間お世話になり、次いで米国のオハイオ州立大学に3年間お邪魔させていただいた後、動衛研に入所した年が阪神淡路大震災の年でした。17年が過ぎました。永遠に忘れないあの時であり、昨年も永遠に忘れない東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故が起きました。これまでの価値観やこれからの生き方を根本から問い続けねばならない日々の中で新たな業務を担いました。

動衛研の体制は、ガバナンスや若手研究者の強化に向けてこれまでの課題対応型のチーム制から専門分野を基盤とする領域制に変わりました。研究部門は本所と支所を併せて6領域2センター制となり、ウイルス・疫学研究領域には20数名の精鋭研究者が属しています。拙生は研究体制の整備や研究予算の確保等裏方業務に徹する覚悟です。

動衛研の研究業務はわが国が定める農林水産研究基本計画に沿って実施されています。すなわち、わが国の農業は農業所得の減少、高齢化の進展、地域活力の低下、食料自給率の低迷、国際的な資源・地球環境問題や穀物需給動向の生産コストへの多大な影響など多くの課題に晒されており、このような課題解決に向け、政府は、わが国の農林水産業・農山漁村の活性化を図る方向として農業生産コストの低減や農林水産業の6次産業化、食品の安全性確保、先端技術の産業化、地域経済の成長等に向

けて、技術革新を総合的、体系的に推進していくことを農林水産業研究の基本計画としました。我々のミッションは明確です。

近年、アジアにおける畜産革命とも称される家畜家さんの飼養頭羽数増加と物や人の移動のグローバル化に伴い、越境性感染症の侵入リスクが急増しています。ここ数年の口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等越境性感染症の発生は、近年のグローバリゼーションに対する逆襲のようです。経済的利益だけで繋がるのではない畜産の将来を模索する必要があると思います。グローバル化・自由貿易化時代の地域再生には農業が一つの鍵であり、地域社会が農業発展を支えていくことが重要だと考えています。一方で、自由貿易に打ち勝つ畜産基盤の強化が緊急課題であり、高度なバイオセキュリティを基盤としたハイヘルスな飼養衛生管理技術の開発が必要となっています。衛生技術の向上なくして畜産の進展は困難な時代になっているといっても過言ではなく、我々に課せられた責務は極めて大きいと痛感しています。また、応用科学としての衛生学研究の面白さ、論文による成果の公表や技術開発による産業貢献の必要性等を後輩たちに伝えていかなくてはなりません。ミッションを達成するためには、研究者個々の多様性が重要だとも認識しています。一方、研究費の獲得に向けて短期長期の戦略を組織全体で進めていく必要があります。課題山積です。

拙生は大きな財産を持っています。畜産業に係る様々な分野の沢山の友人たちです。これからの拙生に残された時間、畜産業に散在する貴重な点を線で繋いでいくのがもう一つの責務だと考えております。今後とも皆様のご指導ご支援をたまわりますようよろしくお願い申し上げます。